

# 泌尿器科 研修カリキュラム

## 【科の紹介】

取り扱う臓器は、副腎および腎臓・尿管・膀胱・前立腺、精巣と幅広く、基本的に診断から治療まで連続して行います。常勤医は4名(日本泌尿器科学会専門医、指導医+専攻医)です。外来患者数は一日平均50名、入院患者数は一日平均15名、年間の手術件数は約350例です。とくに腹腔鏡手術数に力を入れており、更に、手術支援ロボット da Vinci も導入されました。また国内の学会はもとより、国際学会での発表、英文誌への論文掲載も行っており、臨床のみならず、臨床研究にも力を入れております。

## A. 一般目標

泌尿器科疾患患者のプライマリ・ケアが適切に行えるようになるため、泌尿器科領域の基本的臨床能力(泌尿器科疾患の診断・治療を行うために必要な基本的知識、手技修得)を習得する。

## B. 行動目標

1. 泌尿器科の基本的な身体診察法を行うことができる
2. 各種泌尿器科疾患を理解し、その鑑別診断ができる。
3. 泌尿器科診療における各種症状・徴候を判断し鑑別診断に役立てることができる。
4. 泌尿器科診察に必要な基本的尿検査、血液検査、レントゲン画像検査、超音波検査を指示、解釈できる。
5. 泌尿器科特有の検査である尿流量検査、膀胱内圧検査、膀胱鏡検査を解釈できる。
6. 泌尿器科の基本的な手技である尿道カテーテル留置を実施できる。
7. カテーテル留置あるいは間欠導尿による尿路管理を計画し実施できる。
8. 主治医として入院患者の全身および局所管理が適切におこなえる。
9. 泌尿器科領域の基本的治療に関する意義、原理を理解し、適応を決め、手術手技を修得し、治療前後の管理ができる。
10. 適切な診療録を作成することができる
11. 経験すべき症候・疾病・病態
  - 1) 経験すべき症候  
外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う
    - a. 腰・背部痛
    - b. 排尿障害(尿失禁・排尿困難)
  - 2) 経験すべき疾病・病態  
外来または病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療を行う。
    - a. 腎盂腎炎
    - b. 尿路結石
    - c. 尿器・性器がん

## C. 指導体制

1. 泌尿器科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う。
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導

を行う。

## D. 研修方略

### 1. オリエンテーション

- 1) 研修カリキュラムの説明
- 2) 泌尿器科の概要
- 3) 泌尿器科の研修は外来、病棟、X線検査室および手術室で行う。

### 2. 病棟研修

各種疾患の検査予定および実施、処置、患者管理を指導医・研修協力医のもとで実施する。

### 3. 外来研修

外来では、初診患者より問診をとり外来診療を見学するとともに、泌尿器検査や処置について実践しながら習得を目指す。

腎・膀胱の超音波検査、直腸診、膀胱鏡検査、前立腺生検、経尿道的カテーテル留置、膀胱洗浄、尿管カテーテル法については外来および病棟研修で経験する。また指導医・研修協力医と共に実施する。

### 4. 手術室

手術場では、麻酔および手術の助手を務め、簡単な処置を指導医・研修協力医のもとで実習する。局所麻酔及び腰椎麻酔は、手術室研修で経験する。また、指導医・研修協力医と共に実施する。手術については指導医・研修協力医に指導を受けながら、基本手技を学び、助手を務める。

### 5. X線検査室

X線検査室では、尿路造影の手技およびその結果の評価について学ぶ。

### 6. その他

体外衝撃波結石破碎術は、専用治療室で指導医・研修協力医と共に実施する。

## 《1日の流れ》

- (1) 月・水・金曜日の8時30分より、初診患者の問診をとり、当該患者の検査、診断、処置、治療法を学ぶ。
- (2) 月・水・金曜日の午後は体外衝撃波結石碎石術の助手を務めると共に、検査外来では、前立腺生検・X線検査等および膀胱鏡ファイバーなどを行う。
- (3) 症例検討会では手術および入院、外来患者の検討を行い、X線読影・診断・治療法について学ぶ。
- (4) 火・木曜日の手術日は、手術場で麻酔および手術の助手を務める。
- (5) 上記の時間以外は病棟で入院患者の検査、処置、管理を学ぶ。

## 【週間スケジュール】

	午 前	午 後
月曜日	外来および病棟診療	検査外来 体外衝撃波結石碎石術
火曜日	病棟診療、手術	手術、症例検討会
水曜日	外来および病棟診療	検査外来 体外衝撃波結石碎石術
木曜日	病棟診療、手術	手術、症例検討会
金曜日	外来および病棟診療	検査外来 体外衝撃波結石碎石術

検査外来：膀胱ファイバー、尿路造影検査・処置、前立腺生検など

【カンファレンス・勉強会】

レントゲン検査・RI 検査の読影については、症例検討会でレクチャーを行う。

【定例研修会等】

会 名	世話人	開催曜日	会 場
南勢集談会	持ち回り	年間 2 回	松阪
三重泌尿器科医会	三重大学	年間 2 回	三重大学病院
東海地方会	持ち回り	年間 3 回	名古屋
日本泌尿器科学会中部総会	持ち回り	年間1回	
日本泌尿器科学会総会	持ち回り	年間1回	

E. 研修評価チェックリスト

- 泌尿器科の基本的な身体診察法を行うことができる。
- 各種泌尿器科疾患を理解し、その鑑別診断ができる。
- 泌尿器科診療における各種症状・徴候を判断し鑑別診断に役立てることができる。
- 泌尿器科診察に必要な基本的尿、血液検査、レントゲン画像検査、超音波検査を指示、解釈できる。
- 泌尿器科特有の検査である尿流量検査、膀胱内圧検査、膀胱鏡検査を解釈できる。
- 泌尿器科の基本的な手技である尿道カテーテル留置を実施できる。
- カテーテル留置あるいは間欠導尿による尿路管理を計画し実施できる。
- 主治医として入院患者の全身および局所管理が適切におこなえる。
- 泌尿器科領域の基本的治療に関する意義、原理を理解し、適応を決め、手術手技を修得し、治療前後の管理ができる。
- 適切な診療録を作成することができる。